

平成23年度第5回大分市清掃事業審議会会議録

日時 平成24年3月27日(火)午後2時～

場所 大分市保健所 6階 大会議室

開 会

志堂寺課長

審 議

・「家庭ごみ有料化の実施方法について」

(事務局より資料の説明)

【質疑応答】

会長

・特に資料2で、家庭ごみ有料化の料金体系について説明がございましたけれども、この排出量単純比例型から始まって、定額制従量制併用型まで様々なパターンがあり、そのメリット・デメリットの両方書いてございますけれど、この部分はお分かりいただけましたでしょうか。

もし、質問等がなければ、審議に入らせていただきます。よろしいでしょうか。

では、手数料徴収方法で、指定ごみ袋方式を採るということまでは決まっておりますが、例えば、ごみの袋の種類をどうするか、料金体系をどうするかについては決まっておりません。

最初に何種類のごみ袋を準備したらよろしいですかということですが、資料1を見ながらお考えください。資料1を見ますと、大体どこでも3から4種類、多い所で5種類のごみ袋を準備しているところがあります。では、大分市は何袋位を準備したらよろしいでしょうかということです。

委員

・今、大体ごみ袋は、大袋や店の袋等を出している家庭が多いと思うのですが、ごみ収集業務の中でどの袋が多くて、どのくらい量が入って出されているかということは把握していますか。

事務局

・今、ご質問のありましたごみ袋の量とサイズ等でございますが、ごみを出す際に使用する大袋や45リットルの袋、買い物袋などの袋の量やサイズ等についての把握はしておりません。

会長

・はい。参考データとしましては、14ページの表の4 - 5 - 9をご覧になると、この回答者の割合から大体このくらいのレベルかということが想像できるかと思います。

ただ、現実の世界はこういうアンケートの世界と違いまして、小さい袋が多かったり、あるいは大きい袋が多かったりすることがあるかもしれません。それから有料化に伴いまして、今までは45リットルを使っていたものが、急に小さい袋になって数が増えるということが起こり得るということは考えられます。他によろしいですか。

委員

・月曜日・木曜日は可燃ごみの収集日で、よく私は現場に行ってみるのですが、内容としては生ごみをレジ袋に入れて45リットルの袋の中に入れる。あるいは30リットルの中に入れている。可燃ごみというと、生ごみを連想するのですが、今は生ごみよりも、燃焼を強化するためにビニールやプラスチック、木材、木くずが多い。その中で、今レジ袋の中に生ごみを入れて排出しているわけです。大体1世帯で中袋か大袋。小袋というのはあまり見かけません。家庭の生活の事情が出てくるのではないかと思います。生ごみがどれだけ多いかということをお皆さん方も存じていると思いますが、本当に多いのです。カラスがよく狙っているというのは、わずかなものを狙ってくるわけです。今、どの袋がいいかということ大、中、この程度で良いのではないかと思います。小は今のレジ袋くらいが該当するのではないかと思います。

会長

・はい。ありがとうございます。

委員

・ちょっと気になったのですが、容量の話なのですが、重さについては特に何も無いのですか。

会長

・はい。現実問題と致しまして、重さで規制するというのは、量らないといけないという話になりますから、現実には容量で規制をするという形になるかと思います。従いましてごみ袋も45リットルの袋に1キログラム入れようと、40キログラム入れようと、値段としては同じという形になるかと思います。

私なら、家庭から出るごみの中で残飯等も含めたごみは、多分小さい袋で一括して出すだろうと思います。安く済みますから。いわゆる一般のごみと呼ばれるものは、大きい袋で毎週出すのではなくて少し回数を落として出すだろうと思われれます。もし、家計

を守るという意味からするとそう考えるかなと思うのですがいかがですか。

過去のパターンを挙げていくと、有料化のパターンというのは当てはまらないということが起きるかもしれません。それは考慮しておかなければなりません。それから一人暮らしの方とか、それほど多く残飯とか出るわけではないという方々も考慮して袋の数の体系というのもセットしていかなければならないと思います。この準備すべき袋の数・サイズというものにつきまして、もしご意見がございましたらお願いします。

委員

・料金の方は別にしまして、サイズなのですが。私は、45リットルのごみ袋を使っていますが、二人で45リットルでは、上の方が少し空きます。一番大きいものが40リットルで、大・中・小というような3段階くらいでよいのではないかと個人的には思います。それと併せて、行政の方は多分私なんかよりこの分野の色々な勉強していると思うのですよ。そちらの方からも出して頂いてそれを検討するというのも良いのではないかなといつも思うのですが、何か考えているものがありましたら、出していただきたいと思います。サイズの方は大・中・小でいいのではないかと考えます。

会長

・はい。事務局の方で只今、何種類が良いだろうというご提案があればという話でしたけれども何かございますか。

事務局

・今、委員さんからご指摘いただきましたように大・中・小と考えております。

ただし、一番大きな袋を45リットルにするのか、40リットルにするのかについては、45リットルであれば、少し余裕があるということであれば、一番大きい袋を40リットルとし、大・中・小の3種類というようなことも考えられると思います。

会長

・リットルでいきますと、これも考えていただきたいのですが。現在、市場において、40リットルの袋、つまりごみ袋として40リットルのものが出ているのか、45リットルのものが出ているのか。大は小を兼ねるのですが、小は大を兼ねないので、そのところも注意して考えていけないだろうと思います。

委員

・さっきのお話しにありましたけれども、大は小を兼ねるということですが、いつも上が空くわけではないので、大きい方がよいかと思えます。ちょっとの差でもごみが入る場合があるので良いかと思えます。

委員

・今、可燃ごみの中にいわゆるプラスチックとかビニールとか木材とか、こういうものを入れるようになったのは、出来るだけ燃料を強化するためにこのようにしたと思うのです。一般に買っている方は40リットルが多く、45リットルの袋は更に大きいのです。私がこの間お見せしたのは40リットルで、大方皆さん使われているのは40リットルか、30リットルです。その中に色々な燃焼を助長するようなものが多いのです。だから、ごみの本質を皆さん方に考えてもらいたいわけです。ただ、生ごみか不燃ごみかではなくて、燃焼を助けるための政策だということ。そのために、こういう袋の利用の仕方というものを考えておかないと。ただ、大中ではなくて。やはり、皆さん1回現場を見てもらいたいと思います。現場を見ないと分かりません。我々は、毎週現場を見ているわけです。その中で、一般的に使用しているのは、主にスーパーで出ている40リットルですね。45リットルのものは、あまり見かけないです。

会長

・ありがとうございました。

委員

・食べた後のごみはレジ袋で十分賄えるので、可燃ごみは、1、2週間溜めて、40リットル、あるいは45リットルで出すような形で出し方が変わってくると思います。小さいごみ袋で普段の炊事場から出るようなごみをまとめて、1週間に2回というような形に変わってくると思います。だから、ごみ袋についてはきちんと詳細に分けた方が良いのではないかと思います。あと、一人暮らしの家庭は大きなごみ袋を使うことは少なく、週2回決められた中で出していくようになると思います。ストックできる家庭は、ポリ容器に入れて、蓋をしてハエが入らないようにまとめることができるかと思いますが、一人暮らしや二人暮らしの家庭は、毎回出すということを考えると、何種類か分けたほうが良いのではないかと思います。

委員

・一つは、レジ袋の話が出ましたけども、レジ袋は基本的になくすということが世の中の流れで、清掃審議委員はレジ袋を使いなさいという事自体、私は理解に苦しみます。

委員

・例えの話ですよ。レジ袋を使えというのではなく、レジ袋に相当するようなリットルのごみ袋を用意すべきであって、今はごみをレジ袋で出すのが現実ですから、それに代わる容量のごみ袋をきちっと整備すべきであるということです。

委員

・小さめの袋ってという提案だったら分かるのですが、審議員がレジ袋を推薦するのはいかなものかと思ったわけです。

委員

・推薦していません。それは誤解です。

委員

・それからですね、これは大分市のハンドブックですけど、これには燃やせないごみは、45リットルの袋で出してくださいとあります。45リットルを超えると、福宗に搬入してくださいとなっています。

実態は、どういう状況なのでしょう。どのくらいの頻度で、どのくらい大きい燃やせないごみが福宗に入っているのか教えてください。

会長

・45リットルの袋に入らないものは、袋に入れて出しているのですか。

委員

・いえ、福宗に持ち込んでくださいとなっています。持ち込みが、どのくらいの頻度でどのくらいの量になっているのか。もし、そこが多ければ、70リットルとか100リットルも考えなければならないということになるわけです。

会長

・その場合は別料金の形になっているのではないのでしょうか。

委員

・5種類の提案に沿って、工夫ができると思うのですが、袋の大きさは考えないといけません。他市でも60リットルというのがありますから状況を教えてください。

事務局

・只今、委員からご質問のありました、直接の持ち込みの頻度は、現在、手元に資料がございません。

会長

・お時間も経過しておりますので、少しまとめに入りたいと思います。

段階と致しましては、他都市の状況を見ますと、おそらく3、4、5段階くらいを想定すればよいかと考えます。もし、3段階という事であれば、通常考えると、下を10リットルで、一番上を使い慣れている45リットル、真ん中を20か35リットルというサイズになると考えます。4段階となりますと、一番下を5リットルとするかどうかが一番大きな問題になると思います。もし5リットルを使うと10、20、45くらいの4段階くらい。5段階になりますと、今度は5、10、20、30、45といった形になると予想されます。

では、どのくらいの段階で一つひとつの袋をどのくらいのサイズに設定したら良いだろうかということをお尋ねいたします。

今の所、一番大きいものを45リットル、つまり、これまでと同じようなサイズにしておくということによろしいでしょうか。それはご了解いただけますでしょうか。

委員

・旧来45リットルをお使いになっている家庭が大半だと思うのですが、今回こういう形でご提案をさせていただいております有料化の内容は、有料化そのものが目的ではなく、いかにしてごみ減量・リサイクルを進めていくかということが一つのポイントになるかと思えます。そういう観点からしますと、できるだけ減量を皆さん方がやっていただけるようなサイズを一つアイデアとして入れていくということも必要ではないかという感じがいたしております。ですから、45リットルを否定するわけではないのですが、今まで45リットルをお使いだった方が40リットルをお使いになる、そういった方向を、こういう判断の中に一つ留保していただきたいという気がいたしております。

会長

・ありがとうございます。

これを加味して、では最高をどうするかという問題です。仮に従量制を採るとするならば、20リットル2つでも40リットル1つでも同じ値段という形になります。そうしますと、どちらをとるかといいますと、小分けして出せるものならば、20リットルの袋に沢山詰めて出すだろうと思えます。

今までやっていることと全く同じ方法で市民の方が出すという設定をする必要はないのではないかと考えています。

さて、最高をいくつにするかを決めなくてはなりません。最高を40リットルにしますか、45リットルにしますか。30リットルは多分ないと思いますので、40か45リットルかというところで、賛成意見や反対意見はありますか。

委員

・継続から45リットルで良いと思います。

会長

- ・ 45リットルの賛成が1人ですね。

委員

- ・ 45リットルです。

会長

- ・ それでは、決を採りたいと思います。最高のサイズを40リットルにするか、45リットルにするか、手を挙げてください。

45リットルとする人、手を挙げてください。

(5人挙手)

40リットルを最高とする人、手を挙げてください。

(6人挙手)

40リットルが最高ということにいたします。

委員

- ・ 40リットルは入れにくいですよ。主婦の方はそう思います。小さい袋もあるので、小さい袋を使いたい方は、小さい袋を使えば良いのではないのでしょうか。

会長

確かに主婦の感覚はそうだろうと思います。

委員

- ・ 入れにくいのですか。

委員

- ・ はい。上を縛るときに、大変入れにくいです。

委員

- ・ 45リットルの方が入れやすいと。間口が大きいから。

委員

- ・ そうです。

委員

・現場を見ると、大体40リットルが多い。

委員

・40リットルというのは売っていますか。45リットルを売っています。40リットルの袋を私は買ったことがないです。

委員

・袋は40、45リットルとしたときに、ごみ箱の中にごみ袋を入れて、ごみを入れますよね。ごみ箱に入れるサイズとしては、40リットルより45リットルの方がよいのですか。

委員

・小さい箱にいくつかまとめて入れる時に、45リットルの方が入れやすいです。それから、先程の従量の件ですが、やはり絞れば重量が減りますから、何かのところで、重量も関係するような仕組みにすると、絞ってくれるのではないかなと思います。

ついでに言わせてもらおうと、資源ごみの洗う所にいつも水道の蛇口の絵があります。綺麗な水で洗うと、水の消費量もったいないと常々思います。今年も、水道の蛇口がペットボトルの上にあったような気がして、見せてもらいました。これには無いですね。だけど、溜め水でも良いのではないかということで、水道の蛇口の絵を持ってくるのは、少し気になったのでついでに言わせてもらいました。

事務局

・袋の見本を用意しましたのでご覧ください。皆さんから見て、一番左から45、40、30、20、10リットルと貼らせていただきました。

委員

・私が言っていることは、これは有料化です。お金を払うわけです。現在は確かに45リットルを使っています。それは、物によっては45リットルを使わなければ入らない場合があります。ペットボトルとか、色んなごみがあります。だけど、可燃ごみに関しては、おそらく40リットルくらいが一番適当だと。ペットボトルあたりを見てみますと、それはもう大変なことです。やはり、40リットルでは少し小さいと思います。だけど、これらは有料化に該当しませんので、有料化を頭に入れた場合は、経済的な問題を考えた40リットル程度で良いのではないかと思います。

会長

・これは、可燃ごみも不燃ごみも同じ袋を使うってことなので、可燃とか不燃とかいう区別はされません。これは原則です。

委員

・他市状況はどうなっているのですか。

委員

・2ページ、3ページにあります。

会長

・どうすればよいか悩んでいるのですが、40リットルから45リットルに変わろうという人はいませんか。

委員

・もうひと言なのですが、今言った通り、減量ということを含んで考えたら40リットルで良いのではないかと思います。また、軌道修正ということも可能なので、経過を見て、市民の方からの声あれば、45リットルを増やすという形もあると思います。いかがなものでしょうか。皆様方のご意見も拝聴したいと思います。

委員

・今まで、45リットルで出してきた習慣化された部分があります。私の所も45リットルの袋で毎回出しています。45リットルで出すときは、ほとんど上が空いています。1週間まとめたときは、いっぱいになります。

私の所は火曜日と金曜日ですが、火曜日のときは3分の2くらい詰まりますが、金曜日のときは半分くらいしかごみは入りません。それから、可燃ごみと別にした時は、本当に小さい10リットルの袋で十分足りると思います。可燃ごみは1、2週間まとめて40リットルで出せば十分足りるという感じがします。45リットルから40リットルになっても、45リットルであっても、そんなに変わらないのではないかと思います。

会長

・普通は二度採決というものは絶対しないのですが、主婦の感覚というのは非常に大事だろうと思います。理屈で物事を考えているのと、生活の中で、感覚で物事を考えている場合は、全然違いますので、そういう点で主婦の発言というのは非常に重要で、考慮しなければならぬと思います。

委員

・先程、委員さんがおっしゃったように、45リットルのごみ袋が圧倒的に売れます。これは、間違いなく家庭ごみを出すのに必要な大きさは、主婦の方は45リットルという認識が植え込まれていると思います。

会長

・どちらにしても決着はつけなくてははいけません。最高を40リットルにするか、45リットルにするか。

委員

・審議会の方向性としてはですね、両論併記のような形で、幅を持たせるような結論のもっていき方は可能でしょうか。例えば、事務局で市民意見公募をするご予定があるそうですので、そこで、広くご意見をお聞きする中で、結論が出てくるのではないかという感じがいたしております。

会長

・折衷案ができました。要するに40か45リットルを最大にするという提案をしようということ。あとは、パブコメ等の意見を聞いて、例えば45リットルの方が良いという意見が多い場合は、そこでもう一度考えるという形よろしいですか。

委員（一同）

・はい

会長

・ありがとうございます。それでは、最高は40リットルまたは45リットルにいたします。それでは、最低はどのくらいにいたしましょうか。

これは、段階によって違うと思うのですが、比較的多いのが4か5段階ですけれども、4段階とした場合に、5、10、20という形がよいのか、10、20、30という形がよいのかという問題だと思います。ごみ袋を見ながら考えてください。あと、コストも考えなくてははいけません。小さいものを作れば作るほどコストが高くなります。4段階の場合に、5、10、20で40または45にするか、10、20、30で40または45にするかにするか。一番下をどこにするか。

委員

・10リットルで

会長

・他にございませんか。レジ袋の代わりだったら10リットルくらいかなという感じでよろしいですか。

委員

・はい。

会長

・もし異論がなければ、最低を10リットルに設定したいと思います。一番上と下が決まりましたので、あと何段階にするかによって自動的に決まってくるだろうと思います。4段階か3段階か。5段階はこの場合は無いかと思います。4段階か3段階かになるかと思います。どうしましょうか。これは、単純に3段階か4段階かで決を採ります。

委員

・3段階で考えたときに、20リットルと30リットルの中間は袋としてあるのですか。例えば、25リットルとか。

会長

・多分、型を作ればできるのだろうと思います。

委員

・今、市販であるのですか。

事務局

・今は、そちらにご提示してあるものはあると思いますが、3段階とした場合、25リットルというものは見かけないようにあります。ただ、それは私どもが3段階でやるとすれば、そういう袋を作っていくということになると思います。

会長

・3段階か4段階か。

委員

・少ない方が単純に考えやすいですね。4段階で10、20、30、40または45となると、今日はどれで出そうかという部分が出てくると思います。有料化になりますと、いっぱい詰めて出すというような形が出てきます。ごみ袋が多ければ多いほど、ごみ

袋を買っておかないといけないというわけで、コストも随分出てくるところで、半分のものが可能であれば、それも考えられるのかなと思います。

会長

・主婦感覚ではいかがですか。

委員

・細かく分別するときも、講習を何回も受けましたけれども、試行錯誤しながら今現在に至ったと思います。この袋も多分最初に何段階にしてみても、多かたり少なかり試行錯誤で永久に最初の通りではないかもしれないと思います。私も、3段階くらいがよいと思います。4段階で沢山揃えて引き出しに入れてどれというよりも、3段階くらいでいいかなと思います。他所は沢山ありますけれど。久留米市みたいに2つでも良いかと思いましたが、3段階くらいかなと思います。多分、試行錯誤しながら3段階では少ないとか多いとかになって、今の分別みたいに、少し良いように変化していくのではないかなと思います。

委員

・今日はどれにしようかなとか楽しみがあるかも分かりません。価格の面ではどうですか。そんなにいくつも作って高くなると問題かなと思います。下関の10、20、30、45という4段階もあります。やってみないとこの部分は分からないかもしれません。

会長

・皆さん、どう思われますか。4段階にしてから3段階にするのと、3段階にしておいて4段階にするのと、どちらが好評だと思いますか。

委員

・最初のスタートのときに4段階にしておいて、一番使用頻度の少ないものをカットするってことはできると思うのですが、一旦3段階でして、どうしても大きいものが欲しいとかいう時があっても、なかなかそれは上に上がってこないと思います。市民が言うだけであって、30リットルを作りましょうという段階になるのは、大変難しいことだと思いますので、とりあえず4段階でスタートして、どうしても売れ行きが悪いものは、何年か経ったときに、自然消滅というか、カットしていく形がよいと思います。今、皆さんおっしゃっていたように、二人家族が多いとは限らないです。一人の方もいるし、二人の方もいる。四人もいれば六人もいるわけです。それで、40リットルだと上が残るからカットするとか言われても、6人家族のところは45リットルでもギリギリだと思います。45リットルプラス20リットルが必要になるかもしれません。40

リットルが良いのであれば20と20で40リットルではダメなのでしょうか。最初から大きい袋40リットルを使うのではなくて、20と20の2袋で40リットルにしてごみを出すのは可能だと思います。

委員

・価格の問題がそこに絡んでくると思います。

委員

・例えば高松市を見たときに、20リットル20円です。40リットルは40円です。20リットルを2袋と40リットルを1袋は一緒の値段です。45リットルを40円にしていれば、価格的には安くなりますので。そういうやり方もあるのではないかと思います。

会長

・とりあえず多い種類を作っておいて、自然消滅を待つということも一つの方法です。

委員

・また逆に、大・中・小という形で作って、そしてまた、軌道修正をして、市民からの声に合わせて作るという事でも良いのではないかと考えています。

委員

・先ほどの、40リットルにするか45リットルにするかという意見の時には、市民意見交換会をするわけですから、その時に市民の方から意見が出てくるわけです。最初は私も軌道修正して多い種類で市民に提起して、そして市民の意見を加えて、また軌道修正するという事で考えたらどうかという気がしております。

会長

・他にございますか。

4段階を作っておいて、もちろん後から必要がなければ修正をしていくというような形でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

特にご異議が無いようですので、4段階ということにいたします。そうしますと、先ほど4段階となりますと、10、20、30、40または45リットルという形でよろしいでしょうか。提案としては、以上のような提案をさせていただきたいと思います。

それでは、最初の議題であります、ごみ袋の処理をどのようにするかということで、只今のような形に落ち着きました。

次に料金体系をどのようにするかということで、資料の 、4ページをご覧ください

ながら、どのようにいたしましょうかという話になります。全国的に見ますと、排出量単純比例型、すなわち排出量に応じた負担をしますという考え方を採られているところが多いということを資料は述べております。排出量単純比例型以外の型が好みだという方がいらっしゃるでしょうか。

委員

・私は元々有料化には反対でしたし、そういう意見を述べる機会に欠席したものですから、意見を述べることはありませんでしたが、私は一定量無料型が良いと思いますが、こだわりません。

委員

・1点聞きたいのですが良いですか。

負担補助組合せ型というのを、まだ理解できてないのですが。詳しく説明を頂けないでしょうか。

会長

・この負担補助型っていうのは、個人に利益を還元するのですか。

事務局

・負担補助組合せ型は、例えば1年間、今年はこの袋を使ってくださいという形で作成して、それを買っていただくのですが、最終的に年が切り替わる際に余った分については、お金を戻しますよというところもございます。毎年、袋が変わるような形ですね。

会長

・相当コストがかかりますね。

事務局

・調べた範囲では、町レベルでやっているところがあります。

会長

・その場合はですね、排出量が一定となるまでは無料にするということは、全世帯に対して、ごみ袋なりを一定の数配っておくという意味ですか。

事務局

・そうです。

会長

・他にご質問はありますか。もう一度お尋ねします。排出量単純比例型以外の型が好きという方はいらっしゃいますか。好きな理由なんかを述べていただくと助かるのですが。本来大分市は、排出量を削減する目的で作っておりますので、少なくとも排出量が多くなるとコストがかかることから、ごみが減少するということを期待しています。従いまして、基本的には比例型になるだろうと予想をしております。あと、どのような比例にするかという問題だけなので、行政的にはできるだけシンプルな型をとればいいのかと思います。そういう意味では、先ほどお話にありました負担補助組合せ型というのは、あまりにも人口が多い町では難しすぎるだろうと考えます。排出量単純比例型を本審議会として推奨してよろしいでしょうか。ご異論ございませんか。

委員（一同）

・はい

会長

・では、そのようにさせていただきます。料金体系は、排出量単純比例型というのを採ることになりますので、次に有料化の料金体系を現実にくらにするのですかという問題になります。単純比例ですから、リットルいくらというようになると、ものすごく単純になります。

資料の14ページ、15ページをご覧ください。特に資料 に一世帯当たりの負担額（シミュレーション結果）があります。これは、現状の年間収集回数で、1回にどれだけ使用して、年間いくらという金額が出ています。注意して頂きたいのは、一袋当たりの料金というのが15ページの上の表の中にございます。5円とか10円とか書いてあり、一番右に歳入が書いております。これは、5円を上乗せした場合です。つまり、作るには原価がかかります。原価等流通のための費用というようなものは除いて、それにプラスアルファ5円とした場合、初めてこの歳入金額になります。売値が一袋あたり5円に相当するのであれば、原価と運搬費、手数料等がかかってまいります。あくまでも、これは1袋あたりの料金ではありますけれども、手数料そのものだけというものとお考えください。そうした場合に初めて、歳入としてこれだけになってくると思います。その点を間違えないようにお願いします。と、いうことを考えながら、なおかつこれ以上は出せないという金額は、12ページの1月あたり500円程度までは、83%の人が負担しても良いかなと言っています。

事務局

・私どもが、今お示した資料 でございますけれども、この1袋あたりの金額には、

作成の経費も含めたものとして考えています。ですから、1袋5円というのは作成費も販売も委託も全て含めており、そこから我々が必要な経費を払っていくという形にしていますので、歳入としてはこの金額が全部入り、その中から経費はまた別に払っていくとお考えいただきたいと思います。

会長

・つまり、費用を別の所から支出するという事によろしいですか。

事務局

・はい。

会長

粗利益ではなく純利益ですか。

事務局

・この分は袋を売った金額、それは必要な経費もすべて含めて5円で売れば、5円の分が全部入りますけど、その中から必要な経費を払うこととなります。

会長

・つまり、経費はまだ全部済んでない総利益ですね。実際に使えるお金はずっと少なくなるとお考えください。従いまして、先ほど1袋当たりの料金は20円で、今のところごみ処理に使っている7%をカバーと書いていますけど、実際にはもっと下がると考えなければいけません。ということをご考慮の上で、いくらにしましょうか。一応、計算しやすいように、40リットルだけで考えます。40リットルの袋は、1リットル1円として40円としますか。それとも30円としますか。色々な都市の手数料等の額も考え合わせながら。大分市は人口47万人ですね。40万人以上で全国的には平均が53円です。

委員

・例えば、一袋40円とした場合、生産過程があるわけですね。結局、メーカーは大分市です。しかも、委託をする場合40円の中にそれぞれクッションがあって、マージンがそれぞれ渡ってくるわけです。その場合に、行政としての純利益っていうのは、大体どのくらいになるのですか。

事務局

・これは、きちんと計算というのが難しいものですから、試算資料として高松市の例を

挙げております。

30リットルの袋を年間116枚使用し、袋1枚を30円と設定しています。これで、4億9,207万円の収入があります。そのうち1億4,267万円が経費となり、3億4,939万円が収入として残るといふ計算になります。これは一つの例として示しております。

会長

・ありがとうございます。

委員

・近くの中核市のデータも皆さん耳に入っていると思いますし、清掃管理課でも色々と検討されていたと思いますけれど、前回も言ったのですが、ある程度の目標数字を示すことはできませんか。有料化40円と言いますと、40円そのものが行政の方に入ってくるような感じがするのです。これは、全くおかしいわけで。今の行政の方に入ってくるものが有料化の実態なのですよね。いわゆる処理経費の中に入ってくるわけです。それを我々も知っておかないと。有料化で40円といっても、40円そのものが入るわけでもないし、何円くらいのもが入るのか、それがどうも気になるわけです。

会長

・市が業者等に依頼しますやり方には、様々な方法があるかと思ひます。例えば、市が作ったものを委託して販売してもらふという形でありまふと、販売手数料でありまふとか、輸送費も市の方が経費として相手に渡していくというような手法が必要かと思ひまふ。一方、製造元に作るライセンスを与えるという考え方をすれば、それ以降の販売の部分につきましては、一般の商品と変わりがないうようなやり方も考えられると思ひまふ。どういふやり方をする方によつて、経費といふのは随分変わってくるだろうと思ひまふ。その点は多分、大分市も損するわけにはいきまふから、それぞれ考へて、あまり損のないように。せつかく皆さん方が払つて下さつたお金ですから、できるだけたくさん市の清掃のために使えるような形を努力して頂ければなと思ひまふ。他にご質問等はありませんか。

委員

・市民としては安ければ安いほど良いと思ひまふ。高松市の場合、3億4,939万円の純利益は、一体何に使われているのか。高松市については、3億4,939万円をあげるために、こつういふ料金設定をしたのか。これは、別に払わなくてもいくらでも良いのか。その辺がよく分かりまふせん。

会長

・少なくとも、大分市の場合においては、ごみの減量化というのが第一の目的でございます。コストは、回収できるに越したことはありません。赤字だと困りますけれども、たくさんの手数料というものが入れば、それだけ将来的なごみ処理の処分場の建設とかの費用の捻出が可能かと思えます。入ったから、どのように使用していくのかのという事につきましては審議の対象になっておりませんので、今後、要望事項としてまとめていきたいと思えます。他にございますか。ごみ減量の効果があって、他都市とあんまり開き過ぎても困るし負担もあんまり高くなっても困る。その辺のバランスを考えながら、どのように設定するのかという問題です。なかなか言いづらいでしょうから、案を一つ出していきます。リットル1円で高いか低いかを議論してください。45リットルの袋を1ヶ月に何枚使えるか。

委員

・私は持論があって、言いづらいのですが、リットルあたり1円。45が40円ならよいかと思えます。20リットルと20リットルで40円にするか45リットルで40円にするか。

会長

・20リットルの袋は20円。二つ出せば40円。

委員

・40円になりますよね。その時、45リットルでまとめて出せば40円を出せるというのはどうでしょうか。

会長

・もちろんお話の趣旨はよく分かりますけど、先ほど決めました方式のところ、排出量単純比例型を採ります。40リットルと45リットルでは、排出量に単純比例した場合、45リットルは45円で、20リットルは20円という形になります。つまり、割引はないのです。もし、値段を設定するならば、45リットル相当が40円になるような形の設定をしなければならぬことになります。

委員

・はい。

会長

・バナナの叩き売りではないのですが、0.8円とか1.2円という声があっても別に構わないですよ。

委員

・本日の資料7ページの下グラフを見ますと、手数料収入に関して、手数料の水準、リットルいくらかというものと、私どもが目指すごみの減量の効果がある程度見てとれるかと思っております。

やはり、1円を下回る値段の設定と致しますと、期待される減量効果はあまりないと思われます。もちろん、1枚の値段が高ければ高いほど排出抑制率は高くなりますが、こういう判断をした場合、1円以上はリットルとして徴収するのは相当であろうと思えます。

会長

・ありがとうございます。他にご意見等はありませんか。

委員

・中核市で40円から80円、25円、30円、35円というような数字があります。大分県内では21円から30円、35円、42円というところもあります。

こういう所は、ごみ袋の有料化というものを決めて、どのようにごみの量が推移したかを調査しておりますか。

事務局

・前回までの資料の中に、それをお示ししているものがございます。

第3回の資料の市の考え方をお示したものがあります。8ページをご覧ください。これは中核市におけるごみ量の変化、導入年度前後をお示ししております。

また、第4回の資料には、可燃ごみの有料化についての資料をお配りしたところです。そちらは大分県内における有料化実施市、6ページと7ページにお示ししておりますが、平成16年から17年に有料化を実施した日田市、佐伯市、臼杵市が減少の傾向があるものの一部リバウンドがあったとしています。7ページでは、杵築市、宇佐市が18年度に導入し、減少の傾向が見られるという資料をお示ししております。

会長

・よろしいでしょうか。

委員

・はい

会長

・他に、ご意見等ございますか。

それでは、市民への提案といたしまして、1リットル1円ということにさせていただいてよろしいでしょうか。

委員（一同）

・はい。

会長

・それでは、そのようにさせていただきます。市民への提案は1リットル1円ということになりました。これにて一応、本日の議題は終了したかと思えます。早ければ早いほど良いかと思えます。事務局側は何かございますか。

事務局

・特にございません。

会長

・それでは以上を持ちまして、全ての議事を終了します。

では事務局にお返しいたします。

事務局

・委員の皆様、大変お疲れ様でした。次回は、私どもの方で皆様方にご審議頂いたことをまとめまして、また資料としてお示ししたうえで、中間答申に向けてもう少し詰めていただけるような資料をご提示したいと思っておりますので、資料を次回に向けて作る予定です。次回の審議会でございますけれども、先ほど会長と副会長にご確認をいたしまして、4月26日の木曜日、午後14時からということで考えておりますが、場所がはっきりしておりませんので、それをきちんと決めまして改めて書面で皆さん方にはお知らせをしたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。それでは会長、これで本日は終了です。

それでは以上を持ちまして、平成23年度第5回大分市清掃事業審議会を終了いたします。皆様、大変ありがとうございました。